



——— 沖永良部島のことは継承活動レポート ———

しまむに
しまむに
の
な
これまで
なまんだに
と
とう
これから
ふりから

The Past and Future of SHIMAMUNI : The OKINOERABU Island Language

しまむにの歩み

1950～1960年代 【衰退の危機】しまむに禁止と若者の島外流出



小学校での授業風景（1960年代）

方言札（方言の使用禁止）：本土での生活に順応するため、学校でしまむにの使用が制限。使った生徒は罰として「方言札」を首から下げさせられた。

集団就職：中学校・高校を卒業後、多くの若者が都市部で就職。島を離れる動きが加速。家庭での継承が困難に。



集団就職のため、はしけに乗って本船に向かう若者たち

1990～2000年代 【再評価】失われゆく言葉への気づき

1994年・1996年 和泊町・知名町で相次ぎ、しまむにをテーマとした大会が始まる。「禁止」から「文化」への意識変化。

2009年 ユネスコが、しまむにを与論・沖縄北部とともに「国頭語」として、「消滅の危機にある言語」と発表。継承・保全の見直しが始まる。

2010～2024年 【協働】島民と研究者のタッグ

2010年 のちに国立国語研究所所属となる横山晶子さんが、しまむにに関する研究（フィールドワーク）を開始。

2015年 のちに国立国語研究所所属となる山田真寛さんが加わり、言語復興に向けた草の根活動を開始。

2016年 松村雪枝さん（島民）・山田さん・横山さんが、知名町上平川の方言絵本『みちやぬ ふい（土の声）』を制作。その後も、2019年に『シマノトペ』、2022年に『ましゅ いっしゅーぬくれー』と、しまむにを題材とした絵本を刊行。

和泊町・知名町それぞれが、国立国語研究所と、2019年調査・研究・継承活動に向けた連携協力を締結。

知名町公民館講座としてしまむに継承の拠点「しまむにサロン」開講。辞書作りの中心メンバーたちが出会う。

「和泊町島ムニ継承推進協議会」発足 2020年

しまむにを体系的に学べる読本『0から学べる島むに読本』（横山晶子・著）刊行 2022年

「危機的な状況にある言語・方言サミット（奄美大会）・沖永良部」開催 2023年

「知名町島ムニ継承推進協議会」発足 2024年

玉城字で住民主体の辞書を作る「玉城字語辞典編さん委員会」立ち上げ。編さん過程で集めた単語をまとめた「玉城方言語彙集」を字全戸に配布。

【結実】未来への大きな一歩 2025年

6月：国立国語研究所・和泊町・知名町による「3者連携協力協定」を締結。また、知名町立下平川小学校でも協定締結。島民・行政・学校・研究機関が一体となって継承に取り組む体制が確立。

8月：田皆字で住民主体の辞書「たんにやむに辞書」初版刊行。国立国語研究所との協働で、高齢者への聞き取りから構築したデータベースを活用し、対話チャット型AI「AIたんにやん」開発。

下平川小学校と国立国語研究所の共催で「第1回島ムニ祭り」開催。しまむにを通じた手遊びやシマ唄で、老若男女がしまむにに親しむ。



「3者連携協力協定」締結（2025年）

3 しまむにのこれまでとこれから

※見出しのしまむには、屋敷字の児玉富空さんに教えてもらいました。

目次

しまむにって何？	2
しまむにの歩み	3
どうなる？ どうする？ みんなのしまむに	4
しまむにをつなぐ仲間たち	6
えらぶでしまむにみ～つけた	10
国立国語研究所と島民の取り組み	12
みんなで話そう！しまむにの未来	14



沖良子さん
下平川字（ゆしきや）
p.9 / 14 / 15



田中美保子さん
国頭字（くんじやい）（島ムニむんちやの島ムニ保存会）
p.7 / 13 / 14 / 15



田邊ツル子さん
田皆字（たんにや）（たんにやむに辞書編集委員会）
p.3 / 6 / 12 / 14 / 15



玉城字語辞典編さん委員会
玉城字（にやーとう）
p.3 / 8 / 14 / 15



山田真寛さん
（国立国語研究所 准教授）
p.3 / 12 / 13 / 14 / 15



横山晶子さん
（国立国語研究所 テニュアトラック助教）
p.3 / 12 / 13

※表題のしまむには、
国頭字の林シズエさんに
教えてもらいました。

※見出しのしまむには、
国頭字の田中美保子さんに
教えてもらいました。

しまむにって何？

これは、「しまむに（沖永良部語）」で書かれた、沖永良部島の紹介文です。この言葉を今、どれくらいの人
が理解できるでしょうか？
50年前の島の人は、ほと
んどの方が理解できていた
のかもしれませんが。
しまむには、私たちの島・
沖永良部島で脈々とつむがれ
てきた言葉です。このしまむに

をうがみやぶら。
えらぶぬしまわふあなとう
さんごぬなーだかさぬ
しまでいろ。
じゃがいもとうゆりぬ
まんでいできてい
かごしまとうなふあぬ
むんぐとうましりたぬ
にほんにていむみじらしやぬ
しまでいろどー。

性についてもふれました。
これまで、方言辞典の発
行や方言劇、方言かるたの作
成など、しまむにを残す取り
組みが行われてきましたが、
近年、その輪が更なる広が
りを見せています。そんな
しまむに継承の最前線を伝
えるために本誌は作られま
した。高齢者から聞き取り

「しまむに」のすごさはそ
の多様性にあります。沖永良
部島に42ある字（集落のこ
と）が違えば、発音や単語は
もちろん、文法も違います。
また、ある人は、「しまむに
には先祖の暮らしを描写す
る力がある」と、その記録
性についてもふれました。
これまでも、方言辞典の発
行や方言劇、方言かるたの作
成など、しまむにを残す取り
組みが行われてきましたが、
近年、その輪が更なる広が
りを見せています。そんな
しまむに継承の最前線を伝
えるために本誌は作られま
した。高齢者から聞き取り

は、2009年にユネスコが発
表した「世界の消滅危機言語
地図（Atlas of the World's
Languages in Danger）」に
おいて、与論・沖縄北部と
もに「国頭語」として、消
滅の危機にあると発表され
ました。
「なんだか寂しい話だな
ー」と思ったあなた、待っ
てください！実はこの、たっ
た今、沖永良部島では、し
まむにを巡り「復興のムー
ブメント」が巻き起こって
いるのです。

「しまむに」は、この今も
進化しています。意思疎通の
ためだけの言葉から、世代を
つなぎ、地域を連携させ、未
来に向かって私たちの背中
を押してくれるツールへと。
その先には、懐かしくて
新しい、島の宝物がきっと
あなたを待っています。
集めたデータを利用して辞
典やAIを作り上げた事例
や、学校や島ぐるみの取り
組みなど盛りだくさんです。
そして、活動に共通する
ものは、未来への不安を抱
えて眉間にシワを寄せなが
ら行う「お勉強」ではなく、
一貫して「笑い合いながら
共創を楽しむ」という、明
るいしまむに継承です。
研究では、沖永良部島に、
今流暢に話せなくても「聞い
て理解できる」という潜在的
な話者（バツシブ・バイリン
ガル）が、子育て世代にもた
くさんいると言われているま
す。つまり、きっかけさえあ
れば、しまむにはいつでも
復活できる可能性を秘めて
います。だから、あなたに今
「復興のムーブメント」を伝
えたいのです。

※見出しのしまむには、手々知名字の大脇克子さんに教えてもらいました。

※冒頭の沖永良部島の紹介文のしまむには、国頭字の先田光演さんに教えてもらいました。

※本誌では、しま（集落）で使われる言葉という意味も込めて、おもに「しまむに」とひらがなで表記しています。

「どうなる？」「どうする？」

しまむにの未来

どこでも、だれでも、いつでも、方言が使える島になってほしい。
(50代／和泊在住／出身)

学びたいが時間が取れない。しまむにがなくなるのはえらぶらしさがなくて寂しい。
(40代／知名在住／移住)



私は全く分からず外国語のように感じるが、祖母が話していたので懐かしい響き。話せる人がいるうちに、島の歌や昔話などを残せるといいと思う。
(40代／北海道在住／ルーツ)

みんな、しまむにの未来をどう考えてる？ 伝えたい?? それとも、なくなるのはしょうがない?? 島民をはじめ、島外で暮らす出身者やルーツのある人、えらぶに関わる老若男女に、しまむにへの想いを尋ねました。あなたの意見も聞かせてください！ ※年代／住まい／えらぶとの関わり

祖母が方言で話しても理解できませんが、方言を話せる・理解できるというのは大変貴重だと思います。唄などを通して無形文化的に残していけたらなと思っています。
(20代／兵庫県在住／ルーツ)

方言は大切。島の生活感が感じられる。
(60代／大阪府在住／知人が出身)



日常会話として未来に残すことは難しい。英語や中国語のように受験やビジネスシーンに生かせるなど、価値観がひっくり返る動きがあれば。
(30代／知名町在住／移住)

これからは子どもたちも他のところに住むようになるので、英語などを覚えた方がよいと思います。
(70代／東京都在住／ルーツ)

ルーツを大切にするためにも辞書的なものが欲しい。字で異なる点や音声も大事。
(60代／神奈川県在住／出身)

両親が沖永良部出身で、親戚が集まると方言で話していた。方言がなくなると悲しい。
(50代／オーストラリア在住／ルーツ)

今からおじいちゃんの世代のように使い回すのは難しいかもしれないけど、少しでも後の世代に興味や関心を持ってもらい、絶やさないことが重要だと思う。
(10代／黒貫在住／出身)



娘たちが小学校で勉強したこともあり、イントネーションがおかしいながらも、私がしまむにで話すと笑いが起きます。やっぱり、懐かしく、残したい財産だと思います。
(50代／愛知県在住／移住)

大切だとは思いますが、押し付けることはよくない。人の前で方言で悪口を言う人がいる。
(10代／後蘭在住／移住)

しまむに大好きです。島を出て姑との電話はいつもしまむに。それを聞いていた子どもは聞くことができます。わしりていはならぬ島ぬ宝。まず、あていあぬ、むにから、ちこていみゃあぶら！
(70代／鹿児島県在住／出身)

話せないけど、挨拶を友達とすると楽しいし、残したいと思ってる。
(10代／西原在住／出身)



普段使いで残すことは難しいので、本などで残していけば。
(50代／国頭在住／出身)

先祖伝来の言葉なので、大事に永久保存したい。
(80代／東京都在住／ルーツ)



島の人同士でしまむにで会話するのに憧れる。英語を喋るようになっていきたいと同じ。
(10代／玉城在住／出身)

祖父母が話している。文化・歴史として受け継ぐべき、残すべきものだと思う。
(20代／愛知県在住／ルーツ)

英語を学んだ方が将来のためになると思うが、おじいちゃんやひいおじいちゃんが使っていてえらぶを直接感じられるのがしまむにだと思う。なくなると悲しい。
(10代／住吉在住／出身)

日常的にしまむにを使い続ける未来は想像できませんが、合言葉みたいになれば。
(50代／手々知名在住／出身)



あべ！あが！などの感情言葉は残りそう。中学生の口から出てくるとほっこりする。
(40代／知名在住／移住)

私は2世で島外育ちだが、しまむにを少し理解できる。自分のアイデンティティのため島の未来のため継承活動に関わりたいが、日常が忙しくて行動に移せない。数年以内にはアクションを起こしたい。
(50代／愛知県在住／ルーツ)

小学校の頃には方言をしゃべらないように指導がありました。方言は学習ではなく、日常的に使わないと廃れていくことを実感！今なら、まだギリギリ間に合う！
(60代／余多在住／出身)

将来、島に帰ってきたと感じられるものとして残っていてほしい。
(10代／瀬利党在住／出身)



祖父母と賑やかな家族の中で育ったため、私はしまむにを忘れたことはなく、今でも全て話せます。生涯忘れることはありません。娘や孫にも話して聞かせています。
(70代／愛知県在住／出身)

残って欲しいが、将来を考えると英語の方が有用。消えていくのを傍観するしかない。
(10代／内城在住／出身)



自分の沖永良部島をもっと沢山の人に知ってもらいたいから方言も守っていきたい
(10代／手々知名在住／出身)

英語を学んだ方が実用的だが、後世に残す文化。若者の意見が重要。
(30代／和泊在住／出身)

島立ちする我が子のためにも中間層の年代にできることがあると思うが、あまり労力も割けないのが現実。
(40代／内城在住／移住)

言葉が無くなるのは民族がなくなることだと思います
(50代／手々知名在住／移住)



関係者が頑張っているだけ。全島民が取り組まないと百年後には消滅している。
(60代／正名在住／出身)



吸収が早い若者に言語習得の機会を残したい
(40代／玉城在住／出身)

しまむによりも英語を学んだ方が役に立つ。
(40代／和泊在住／出身)

上京して方言を聞くと親近感が湧いたり、絆を感じてしまう、尊いものだと思う。
(20代／青森県在住／知人が出身)

しまむにの未来への声、まだまだ募集中！ここに載せる声は締め切りましたが、「しまむにの未来」への声は令和7年度3月末まで募集中です。あなたの想いもぜひ聞かせてください。



しまむに

しまむにを仲間たち つなぐ

しまむに
ちなぎぬ
あぐんまや

しまむにの継承活動は、どこで、どんな人が、
どのように取り組んでいるのでしょうか？
そんなしまむにをつなぐ「あぐんちゃ（きや）」（仲間たち）を紹介します。

※見出しのしまむには、田皆字の田邊ツル子さんに教えてもらいました。

たんにやむに辞書 第一版完

CASE 01

教職体験を糧に、
田皆のみんなでしまむにを未来へ

田邊 ツル子さん

辞書づくりは基本的に、語彙調査と録音が中心。個人活動から、有志で事務局を立ち上げ、百歳超を含むしまむに現役世代に編集委員に加わってもらうなど、その輪が広がっていきました。田皆字のしまむには島でも独特といわれ、例えば砂糖を意味する「さた」を「さあーた」と呼ぶなど、そこにはかつての日本の古語が息づいているといわれます。

世代によって使い方は さまざまの辞書

を味わってほしい」という思いが強く、そのため装丁にもこだわったと話します。

辞書は、製本版でもオンラインでも見られ、QRコードを読み込めば音声も聞け、またA1方言学習ツール「A1 たんにやん」も同時公開しました。田邊さんは「しまむに現役世代は懐かしんでもらい、聞いて分かるけど話せないという人は学習に使ってもらい、子どもにはA1で楽しく学んでほしいです」と、世代ごとの使い方を呼びかけています。

田邊 ツル子 たなべつこ

1961年生まれ、田皆字出身。教育畑で40年。島内の大城小学校の校長職を最後に退職。知名町の公民館講座で方言の辞書の存在と手法を知り、地元の方言辞書「たんにやむに辞書」編さんに着手。2025年に第1版を刊行した。



たんにやむに辞書の完成お披露目会で、「モーヤー」を踊って会を締めくくっている田皆字の皆さん

CASE 02

つないで、あと押し！
しまむに継承の応援団長

田中 美保子さん



40年 絵本を読み聞かせて

田中さんの専門は幼児教育。40年以上、幼稚園の先生として過ごしてきました。とくに勤務地であった和泊町の大人は教え子ばかり。田中さんは「卒園から何十年も経った今でも、いろんな場面で助けてもらえます」と嬉しそうに話します。

そんな田中さんがしまむにに強く惹かれたきっかけは、絵本の読み聞かせ。20年前に幼稚園で島の伝承を紙芝居にしたところ、子どもたちが興味を示してから、しまむにによる読み聞かせを取り入れていきました。幼稚園は2025年に休園してしまいましたが、現在は、小学校で方言かるたを使った郷土教育などを通して、しまむにの継承に取り組んでいます。

その原動力は、田中さん自身がしまむにに囲まれて育ったことはもちろんですが、島の先輩から言われたある言葉でした。「しまむにぬなまぬなーになむでいぬくとうわしとうどー（しまむにがなく

つながれ、ひろがれ、 しまむにむんちゃー！

田中さんが立ち上げた「島ムニむんちゃの島ムニ保存会」の「むんちゃ」は「人たち」で、「しまむにを保存する仲間たち」を表します。人懐っこい笑顔と愛嬌たっぷりのおしゃべりで、自然と周りに人の輪ができていく田中さん。まさしく「島ムニむんちゃー」です。



しまむにを使って寸劇を披露する田中さん（右）

田中 美保子 たなか みほこ

島ムニむんちゃの島ムニ保存会代表。1959年生まれ、国頭字出身。幼稚園に44年間勤めた後、小学校職員として今も幼児教育の現場に関わる。これまでに絵本を読み聞かせた島の子どもは5,000人以上。



しまむにを教えながらお菓子を作る様子

周りには、大人や子どもはもちろん、島での方言継承の盛り上がりを感じて駆けつけた研究者も。6月2日前後に始まったイベントも年々回を重ねるたびに賑わいが増しています。「取り組みを知って、『がんばってるね』『しまむにのグッズをもらってうれしかった』と声をかけてくれる人が増えてきたと感じます」と言い、ほほ笑む田中さん。

そんな、しまむにを大切に思う人々をつなぐ「しまむにコーデイナー」として、田中さんは今日もどこかで、しまむにむんちゃたちの輪をつなぎ、ひろげています。

CASE 03

玉城の土の匂いと 年長者への感謝を形にしたい

玉城字語辞典編さん委員会



集めた言葉は二千超！ 字民総出で辞典づくり

沖永良部島にある42の字（あざ＝集落）の一つ、玉城字。人口約300人。かつての呼び名は「ニヤートウ」で、「稲干しなどの作業を行った広場」だという説があります。玉城字出身の前幸貴さんの声掛けで、「地元の文化を残そう」という気運が高まっていた中、2024年に和泊

町の文化継承活動への補助事業に採択されたことで動きは本格化。辞典の名前を「玉城『語』辞典」としたのは区長さんのアイデア。前さんは「日本語や英語と同じように並んでいて、いい響きだと思いました」と振り返ります。辞典づくりは決まって日曜14時に公民館で行われます。肝は、土の匂いがする辞典にすること。例えば、「むかしわちんちよぬなーぬやーわ

あーぬやーからさしちこうていみじはこどうたん（昔は井戸のない家はある家から長さ五尺ほどの天秤棒を使って水を運んでいた）」など、うやほ（先人）の暮らしが目に浮かぶような例文を心がけています。辞典の掲載候補に挙げた言葉は二千以上。それを国立国語研究所の山田真寛教授の助言から、字の約200世帯に配布したところ、住民たちのしまむにへの想いに火が付きました。「この言葉も追加してほしい」「この言葉なら違うアクセントでこんな意味になる」などの声が続々と集まって、12名から、一挙に字民総出の辞典づくりへと広がりました。

50代から90代まで多様な立場と視点が集う

参加者は、パソコンで例文を記録する50代の若手から、むぬしり（物知り）の90代の年長者までさまざま。立場もほとんど玉城育ちの人もいれば、Uターンもあり、親が同字出身の玉城二世も。それぞれの特技と視点を活かして、辞典の完成を目指します。

そこにいつももあるものが、手作りの郷土菓子。参加者の一人が持ってきてくれるそう、で、続けられる秘訣の一つだそうです。辞典が目標ですが、毎週集って和気あいあいと賑わうこの状況そのものもまたかけがえのないもの。しまむにがくれた贈り物と言えるでしょう。

しまむにには島の風景を描写する力がある

年少の西田真弓さんは、父親が玉城出身の二世。しまむにに興味を抱く中で、「いつか、自分のようにしまむにに興味を持った人が知ることができるよう」とと辞典づくりに参加。パソコンを扱う貴重なメンバーとして、言葉の記録係という大役を担います。「皆さんと毎週会っている



玉城字語辞典編さん委員会

玉城字のしまむに「玉城語」の辞典づくりのため集まった、同字出身の50～90代の12名。メンバーは、学校関係者、福祉関係者、島二世、長寿クラブ役員、民謡継承者など。毎週日曜の14時に玉城字公民館で編さんに励む。



玉城字語辞典編さん委員会の皆さん

うちにだいぶん分かるようになりました。しまむにには、両親が幼い頃の沖永良部島の風景を描写してくれる力があります」と西田さんは話します。「玉城語の例文が載った辞典が、字誌に加わることで、先祖の歴史が深く分かるものになるのでは」と、完成に期待を寄せる前さん。しまむにには、写真や映像とはまた違った、先祖の暮らし——「土の匂い」を未来に遺せる媒体と言えるのかもしれない。

しまむにで話すと、 ぴたっと気持ちちはまる

沖良子さんは11人家族の長女として生まれ、島を出るまでは三世代の賑やかな家庭の中で過ごしました。学校教育の中で方言が禁止された時代においても、しまむには家族の共通語で、親しんだ言語でした。

高校卒業後、名古屋と兵庫で暮らし、奈良での結婚後、1981年に島に帰った沖さん。自身が母になってからも、夫婦と親子の会話はしまむにでした。今でも子どもたちはしまむにを聞いて理解することができると話します。沖さんにとって、しまむにの方が共通語よりも母語に近い。「しまむにで話すと、ぴたっと気

持ちがはまって、ずっと通じるんですよ」と、その肌への馴染みっぷりを話します。

しまむに話者として 声優デビュー！

下平川小学校で子どもたちにしまむにを教える沖さんですが、実際の音声をYouTubeで聞くことができます。「白くま沖永良部島」で検索すると、ユーモラスな顔をした白くまが主役の、浦島太郎や桃太郎を下敷きにした短編アニメが出てきます。これは鹿児島では「白くま」アイヌでお馴染みのセイカ食品の動画。このナレーションに声を当てているのが、ほかでもない沖さんなのです。

島の観光協会のフリーペーパーに以前、しまむに話者として沖さんのことが載り、それがセイカ食品のプロモーション関係者の目に止まったことで依頼を受けたとのこと。動画では沖永良部島以外にも、種子島や奄美大島の方言による動画が並んでいます。驚きながらも、滅多にないことだからと引き受けることにした沖さん。「浦島太郎の話だから」と、いつでも情景



下平川小学校で子どもたちがしまむにの歌を歌う様子

沖良子 おきりょうこ

1952年生まれ、後蘭字出身。島出身の夫との結婚の後、1981年に帰島し、現在は下平川（ゆしきや）字在住。国立国語研究所のしまむに学習プログラムでは、マスターの一人として、若い世代にしまむにを教える継承に取り組む。



方言すぎる昔話
「桃太郎」
沖永良部島篇



方言すぎる昔話
「浦島太郎」
沖永良部島篇

6年が勝負」だと危機感を募らせる沖さん。「国頭に住むおばあさんが、『しまむにがなくなったら島がなくなるのと一緒に』って話していました。私たちが元気なうちに、録音したり動画に残したりしておきたいです」と話します。生きたしまむにを聞いて、教わり、話せる時間はいつまでも続く訳ではありません。沖さんは、島内でも島外でもリアルでもオンラインでも、しまむにをつなぐことに余念がありません。



手々知名字のしまむにでの字名は、旧名の「あかたじ」。舟こぎ競技などで着ることで、一致団結！ 気合が入ります。

立派な遊具とブランコがある、ヤーシチ公園。この「ヤーシチ」とは、敷地を町に寄贈した家の屋号なんだとか。



しまむにのオノマトペ（擬音語・擬態語）が押せるスタンプです。気分に合わせてべったんべったん、押したくなる！

えらぶでしまむに、み～つけた！



えらぶで、しまむに、み～つけた！

しまむには、会話の中で減っていても、島で見かけることはむしろ増えているのかも。場所や店の名前、看板に書かれた標語や、商品の名前など、よく探してみると、あちこちでしまむにを発見できます。一部を紹介。あなたも、しまむにを探してみませんか？

元気よく体操をする人たち。実は田皆字のしまむにで歌われるラジオ体操に合わせています。また、知名町の防災無線でもしまむにバージョンが毎週日曜日に流れます。どこかの字のしまむにに偏らないように工夫されているのだとか。



知名町役場では、しまむにの方が話しやすい高齢の方の対応のため、職員などのしまむにの習得度を3段階で表すことのできるバッジが用意されています。



えらぶ発のご当地バンド「バンシローズ」の曲の歌詞には、よくしまむにが登場します。「アキラへの伝言」という曲では、メンバーの高風さん（黒貫字）のしまむにの語りが堪能できます。QRコードから動画をチェック！



「さたぐるま」は、刈り取ったサトウキビから汁を絞出す装置のことで、その名前が付いたお菓子です。「さた」だけで砂糖を意味します。



仕立て屋さんの「アトリエ・カミジョー」のカミジョー（加美嬢）は、店主のお母さんのヤーナー（幼名）だそうです。名前負けするわあ、とお母さん。



国頭（写真左）と瀬利覚（写真右）にある、交通安全の標語。同じ意味をそれぞれの字のしまむにに書いています。さて、なんと書いてあるか分かるでしょうか…？



カウンターで飲んでいると友達が増えているという居酒屋「もおりもおり」。実は「おいでおいで」という意味でした。お店にぴったりの名前ですね。

夏に涼む子どもたちで賑わう、瀬利覚字の泉「ジッキョヌホー」。そのま、ジッキョ（瀬利覚の旧名）ヌ（の）ホー（泉や川）という意味なんです。



下平川小学校の3年生たちが創作童話「マンゴー太郎」を演じる様子。セリフは全編しまむにです。



知る人ぞ知るえらぶの清流、皆川字の「ニャーグヌホー」は、ニャーグ（皆川の旧名）ヌ（の）ホー（泉や川）。ジッキョヌホーと似ている表現です。

うぬー 振り込みは、
うそ電話サギ
な はじいどー

- メールの電話番号に 電話 なあだな あつていなー
- 有名企業が なぬ たあぬ メールが ふーだな あつていなー
- たかさぬ 金が むろらゆむ でいぬ 話が ふーだな あつていなー
- どうに おぼえぬ なあぬ 金は 請求 しらだーな あつていなー

島内の郵便局などの金融機関では、ATMのそばに、うそ電話詐欺について注意を促すしまむにも。

和泊町・知名町・ 国立国語研究所の三者協定

2015年からの草の根活動を基盤とし、2019年の両町との個別の協定を引き継ぐ形で、2025年に和泊町・知名町の両町と「しまむにに関する連携協力協定」を締結。行政と研究機関が正式にタッグを組んで全島的な継承活動を推進する体制を確立しました。

松村雪枝さんとの絵本『みちゃぬ ふい』作りから始まり、増えていく仲間に公的機関も加わっていただきました。6年にわたる両町のご尽力のおかげで、「えらぶを全国の言語復興のモデルケースに」を、本当に実現する段階までできました。



山田真寛さん



前 和泊町長

国語研との連携協定は、消滅の危機にあるしまむにを未来へつなぐ大きな一歩で、後世に伝えられる土台ができたと感じています。島の文化の根である言葉を、日常に取り入れ、学術的にも記録し、全国に誇れるモデルに育てていきたい。

マスター・アプレンティス によるマンツーマン伝承

2024年から、しまむに母語話者（マスター）と学習者（アプレンティス）がペアになり、生活の中でマンツーマンで言語を受け継ぐ「マスター・アプレンティス」プログラムが開始。米国カリフォルニア州で1990年代から実践される手法で話者を育成します。



横山晶子さん

マスター・アプレンティスは、多様な島のことをできるだけそのまま次世代へつなぐための魅力的なアプローチです。現代社会の中で無理なく続けられ、他の危機言語にも応用できる形を目指しています。

母と娘、時には孫も一緒に始めて2年になります。菓子作りや植物を使った昔ながらの遊びを、しまむにで説明しながら進めます。作業中、思わぬしまむにが出てきたり、生きた会話が互いに学べたりと、しまむにを再認識できます。



勝間千津子さん



田中美保子さん

サロンのメンバーは、島から参加していて、字ごとにしまむにが微妙に違います。「〇〇字ではこんな言い方をするんだね、おもしろい!」「しまむにはみんな違ってみんないい!」を発見できる、まさに文化交流の場です。



横山晶子さん

『しまむにサロン』は、しまむにを学びたい人や、大切に思う人が集まり、島内各地の継承活動が生まれる起点となってきました。これからも新しい学びを共有しながら、大切に育てていきたいです。

しまむにサロンで 市民科学者を育てる

2019年に知名町公民館で「しまむに講座」（現在は「しまむにサロン」に改称）を開講。言語学習だけでなく、記録方法や辞書の作り方を教えて、住民自身が研究者の視点を持つ「市民科学者」となるよう育成に取り組みました。これが後に、住民主体の辞書づくりにつながりました。

国立国語研究所（国語研）とは、日本語・日本のことばの科学的研究機関です。言語研究者としてしまむにの保存・継承活動に取り組む島民達を支えています。ここでは、そんな国語研の研究者と沖永良部島の島民が、力を合わせて取り組んできた成果について紹介します。

取組みの島民の研究所と国語



山田真寛さん
(国立国語研究所 准教授)



横山晶子さん
(国立国語研究所
デニユアトラック助教)



エイデン・コールマンさん
(国立国語研究所所属・アメリカ出身)



トレパー・スレヴィンさん
(国立国語研究所所属・アメリカ出身)

下平川小学校と 連携協定&島ムニまつり

2025年に知名町立下平川小学校と、国語研では初となる連携・協力校として協定を締結。同校の「島ムニタイム」などの授業に対し、カリキュラム面での支援を行います。2ヶ月後には早速、「第1回島ムニまつり」を共催しました。



エイデン・コールマンさん

子ども向けのイベントに参加する機会が少なかったで、彼らのしまむにへの思いや意識が気になっていました。島ムニまつりでは、しまむにについて、親子で気楽に話したり、スタンプやグッズに興味を持ったりしていて、すごく感動しました。



西啓亨さん
(下平川小学校校長)

国語研との連携のおかげで、話者でない教員でもしまむにに取り組みやすくなり、指導法や教材などの成果を島内の他校に広めやすくなったと思います。また、島ムニまつりでは地域ぐるみで楽しむことができました。



三世代でしまむに継承プロジェクト

2017年、親子三世代でしまむにをつなぐ「しまむにプロジェクト」を実施。子どもたちの夏休みの自由研究として、前田さん一家など島の4家族が共通語の歌や絵本をしまむににしたり、カルタを作ったりという作業を通じて、しまむに継承に取り組みしました。2019年、前田さん夫妻はアメリカで行われた国際シンポジウムで発表しました。

しまの人たちが「やりたい」と思うこと（内発的に動機づけられること）を知るために始め、翌年以降も国頭小学校、和泊町役場で実施しました。蒔いた種は育ち、高校生になってしまむにをテーマに探求プロジェクトに取り組む子たちもいます。



山田真寛さん



前田ゆり香さん

山田さんがいなければ気付けなかったしまむにの大切さ。気付けたのなら、私たちにも何かできるはず。子どもも大人もばーばもじーじも、みんなでおもしろがりながら活動を考える。みじらしゃぬ くとわ ちぢきゅんどー!

田皆字の辞書づくり&チャット型AI「AIたんにゃん」

2023年から田皆字の住民グループ「たんにゃむにサークル」に対し、辞書制作の技術的支援を行いました。2025年8月に「たんにゃむに辞書」初版が刊行。また、高齢者から聞き取り集めた言葉をデータベース化し、チャット上でたんにゃむに（田皆字の方言）についてのクイズ出題などをしてくれる「AI たんにゃん」を開発しました。



トレパー・スレヴィンさん

初めて沖永良部に行ったとき、えらぶぬちゅーのしまむに復興へのやる気に驚き、感動しました。この強いやる気のおかげで、辞書を作成するため、みんなと一緒に一生懸命頑張ることができました。しまぬちゅーの努力に感謝しています。

研究者のご指導のお陰で「たんにゃむに辞書」「AI たんにゃん」が活用でき、住民はもちろん島を離れ都会に暮らす方々からも大好評です。いつでも・どこでも・親しめる・学べる、更に充実した辞書を目指してこれからも取り組みます。



田邊ツル子さん



AI たんにゃん

みんなで話そう！ しまむにの未来

話した人



沖 良子さん
後蘭字出身。
下平川字在住。
下平川小学校でしまむにを
教えるなど、
精力的に継承活動を行う。



田邊 ツル子さん
田皆字出身。
「たんにやむにサークル」代表。
同字のしまむにや
伝統芸能の保存継承に取り組む。



西田 真弓さん
沖永良部2世。
玉城字のしまむにの
辞書『玉城字語辞典』
編纂委員会の一人。



田中 美保子さん
国頭字出身。
「島ムニもんちやの
島ムニ保存会」代表として、
しまむに継承に
取り組む人たちをつなぐ。



西 啓亨さん
知名町の下平川小学校校長。
学校教育でしまむにを
精力的に取り入れるほか、
自身もしまむに学習中。



山田 真寛さん
国立国語研究所准教授。
沖永良部島でのしまむに
継承活動を支援しつつ、
研究している。



沖永良部島で昔から話され、
大切に受け継がれてきた「しまむに」。
近年、話者の減少で消滅危機言語として懸念される中、
島内各地で継承と保存に向けた取り組みが広がっています。
そこで、情熱を注ぐ6人の
しまむにもんちや（しまむにの仲間たち）が集まり、
お互いの活動や想いを共有しました。

※見出しのしまむには、仁志字の沖野マスノさんに教えてもらいました。

原動力は、 頼られること。

「精力的に活動する方に集
まってもらいましたが、まず
聞きたいのは原動力です。と
くに沖さん。小学校の講師や、
声優までこなしますが、その
源は何ですか？」



沖さん≪私は、声が掛
かるのが嬉しいんですよ。
要するに人が好き。≫

「声を掛けられる、頼られ
るって嬉しいですね。今日
は、沖さんがしまむにを教え
に行かれる下平川小学校の校
長先生もいますが、声を掛け
る立場としてどうですか？」



西校長≪とても心強い
です。いつも二つ返事
で対応してくださり、ありが
たいですね。≫



西田さん≪私は、沖さ
んが声優をされた浦島
太郎の動画（9ページ参照）
を見て、やさしい語りで頭に
すっと入り、感動しました。
よく島外の人に「これがしま
むにだよ」と紹介しています。
弟の話では、しまむには父の
怒ったときに話す印象がある
そうです（笑）。≫

「確かに、話し手によって

印象は変わりそうですね（笑）。
関わった人に
喜んでほしいから

「すでに色々されている
沖さんですが、新たに挑戦し
たいことはありますか？」



沖さん≪辞書作りです。
下平川小学校区にある
8つの字で、すでに取り組ま
れている上平川と芦清良以外
の字の高齢者の方に呼びかけ
て、進めたいと思います。田
皆字で田邊さんが、玉城字で
西田さんが頑張っている姿を
見てすごいなと思い、刺激を
受けました。≫



「田皆字は2025年8月
に辞書が刊行されましたね。
田邊さん、振り返っていかが
ですか？」

田邊さん≪完成時に、
例文づくりや収録に関わった
高齢者（の皆さんが、自分が
関わったものが形になりとて
も喜んでいらっしやうって。そ
れが嬉しかったですね。≫

「玉城字で同じく辞書作り
に取り組んでいる西田さんは、
メンバーで最も若手ですね。
そして、ルーツはあっても島
出身じゃない。そこでの苦労

はありましたか？」



西田さん≪当初は「し
まむにを話せない私に
何ができるんだろう」と不安
でした。でも、パソコンで例
文を記録していくと、一年経
つ頃には大体なんとなく分か
ってきて。それから、例文
から広がり、皆さんが昔の思
い出話をされるんですよ。こ
れが楽しい。≫

「玉城の辞書は「土の匂い
がする言葉」という考えを意
識されていたと思いますが、ま
さにそれを体現されている何
よりもの証拠ですね。」



西田さん≪今後は、田
皆字の「A」たんには



調整役と声掛けが、 チーム力のカギ。

「沖さんがこれから辞書作
りに挑戦されるという話があ
りました。先に辞書作りを
始めた立場として、田邊さん
からアドバイスはありますか？」



山田さん≪Aはすぐ
にでも作れるけど、田
皆ではデータベースを作っ
てくれたから実現できたん
です。なので、玉城もすぐにでき
ると思いますよ。≫

「では、例文が書かれた
紙を見ながらチェックをした
後で、修正作業を行います。こ
れらの準備と修正に時間を要
します。玉城でいえば西田さ
んのような、事務局を担って
くれる存在が欠かせないと思
います。」



田邊さん≪編集委員会
では、例文が書かれた
紙を見ながらチェックをした
後で、修正作業を行います。こ
れらの準備と修正に時間を要
します。玉城でいえば西田さ
んのような、事務局を担って
くれる存在が欠かせないと思
います。」



沖さん≪はい、私もそ
こが心配です。パソコ
ン操作に慣れている方の協力
があれば有り難いです。≫

「それで言うと、田皆字の
活動を見ていてすごいなあと
思うのがチーム力。活動を見
に行くと、いつもお揃いの緑
色のシャツを着た方々がキビ
キビと動いていますよね。田
邊さんは、代表として心掛け
ていることはありますか？」



田邊さん≪いろんな方
からの情報を基に声掛
けを意識しています。最近も
編集委員に、新たに6人加
わってもらったことができま
した。≫

「なるほどなあ。先ほどの
沖さんの「声が掛かると嬉し
い」につながりますね！」

「できる人ができる時に」 をみんなでやろう

「田中さんはこれまでの皆
さんの話を聞いて、思うところ
はありますか？」



田中さん≪辞書作りが
羨ましいです。私の出
身は国頭字ですが、ベースと
なる辞書がもうあるんです。
また、私が（国頭の外に）住
んでいることもあって今では

p.16「わかゆんかや？しまむにとめらー」の答え

1うだぬしゃーぶらー（よろしくおねがいします）／2ちゆらさん
（きれい、うつくしい ※知名町の字ではおもに「きゆらさん」）
／3はなしやん（好き、かわいい、親しみがある）／4ほーら
しゃ（しあわせ）／5がながん（そうそう）／6まさん（おいし
い）／7あべ（驚いたときの声）／8わらんちや（こどもたち
※知名町の字ではおもに「わらんきや」）／9あじ（おばあちゃん）
／10あやぶらんどー（どういたしまして）／11はたくなさー
（さびしい）／12くるさ（黒色）／13ぬーよー（なんですか？）
／14みへでいろ（ありがとう）／15みゆん（見る）

う	ち	ゆ	ら	さん	な	ふ	み	ん	ほ
だ	や	お	き	の	や	み	え	へ	め
ぬ	む	ほ	ー	ら	し	や	ら	で	り
し	ぐ	お	し	ゆ	な	ん	ぶ	い	ゆ
や	く	が	で	ず	は	ー	ー	ろ	す
ー	ま	さん	せ	ー	ど	よ	ー	や	ー
ぶ	て	り	ご	が	ん	さ	ー	へ	み
ら	ぬ	る	ぐ	ら	ん	る	な	だ	に
ー	べ	あ	ぶ	ば	ち	あ	う	る	す
そ	き	あ	や	ち	ん	ら	わ	ゆ	び
き	あ	ざ	あ	じ	ら	ん	ど	ん	せ

う	ち	ゆ	ら	さ	ん	な	ふ	み	ん	ほ
だ	や	お	き	の	や	み	え	へ	め	す
ぬ	む	ほ	ー	ら	し	や	ら	で	り	ん
し	ぐ	お	し	ゆ	な	ん	ぶ	い	ゆ	う
や	く	が	で	ず	は	ー	ー	ろ	さ	ど
ー	ま	さ	ん	せ	ー	ど	よ	ど	や	ー
ぶ	て	り	ご	が	ん	さ	ー	ー	へ	み
ら	ぬ	る	ぐ	ら	ん	る	な	だ	ぬ	に
ー	べ	あ	ぶ	ば	ち	み	う	く	る	さ
そ	る	や	ち	ん	ら	わ	ゆ	ぴ	た	こ
き	あ	ざ	あ	じ	ら	ん	ど	ん	せ	は

分かるかな？

わかゆんかや？

しまむに探そう

どうめらー

この合計121個の文字の中には、
実は15個のしまむにが隠れています。

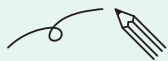
上下と左右、斜めでも、
どこから読んでも構いません。
難易度はかなり高め。

一人ですべて見つけた方は、天才かも!?

(答えは p.15 左下)

※見出しのしまむには、玉城字の前幸貴さんに教えてもらいました。
※クイズのしまむには、国頭字出身の田中美保子さんに教えてもらいました。

あとがき



何十年振りに会った友達も、しまむにを使うと一気にその距離が縮まり、わたわたり（温かい）とした空気が流れます。しまむにの持つ不思議な力です。地道に継承活動に取り組んでこられたすべての皆さまに心から感謝いたします。この本が島内外の沖永良部出身者を結び、しまむにの命をつないでくださることを心から願います。

(発行：島ムニむんちやの島ムニ保存会 代表 田中美保子)

島の皆さんの、しまむにに対する想いに耳を傾け熱意に触れ続けた制作期間でした。個人的に印象に残った言葉は、ある高校生が寄せてくれた「島に帰ってきたと感じられるものとして（しまむにが）残っていてほしい」という言葉です。しまむには、えらぶをえらぶたらしめる存在で、未来永劫忘れないことが大切だと思いました。なまから あていむしまむにし あしばー!

(取材・編集：合同会社オトナキ 代表 ネルソン水嶋)

Q あぐんちゃとつながろう!

しまむにをもっと知りたい人におすすめのサイト



しまむに宝箱

2010年からしまむにの研究を続けている横山晶子さんのウェブサイト。記事・教材・語彙データベースを公開しています。



ことばのミュージアム

国立国語研究所が運営する、日本各地で話されている色々なことばを見たり、聞いたり、学んだりできるウェブサイト。本誌の「しまむにをつなぐ仲間たち」の記事のロング版が載っています。

ご協力いただいた皆さん (五十音順)

アンケートにご回答いただいた皆さん／アトリエ・カミジョー／池畑美恵乃さん（手々知名字）／伊口裕喜さん（国頭小学校 校長）／岩崎典子さん／エイデン・コールマンさん／大脇克子さん（手々知名字）／沖永良部酒造／沖野マスノさん（仁志字）／勝間千津子さん（芦清良字）／高智子さん／児玉富李さん（屋者字）／先田光演さん（国頭字）／しまむにサロンの皆さん／瀬島奈緒美さん（瀬名字）／宗紘一郎さん／玉城字語辞典編さん委員会の皆さん（伊井栄子さん・伊東時雄さん・大里裕さん・早瀬俊子さん・玉里和明さん・南初子さん・西田かつみさん・西田真弓さん・前田アイ子さん・前田勇さん・前幸貴さん・脇田キミ子さん）／たんにやむにサークル（田皆字）／西啓亨さん（下平川小学校 校長）／人間文化研究機構共創促進事業「開かれた人間文化研究を目指した社会共創コミュニケーションの構築」／芳賀日出男さん／バンシローズ（カナキヤスヒロさん・高風勝一郎さん）／福島文子さん（国頭字）／福島未稀波さん／太剛志さん（仁志字）／ポニー食品／前田ゆり香さん（芦清良字）／もおりもおり／和泊郵便局

スペシャルサンクス (五十音順)

田畑孝子さん（国頭字）・中村スエさん（畦布字）・西村富明さん（国頭字）・林富義志さん（正名字）・松村雪枝さん（上平川字）・和泊町教育委員会・知名町教育委員会 ほか、これまでしまむにをつないで来られた皆さん

※本冊子は、「和泊町アグロラスト基金活用事業補助金（令和7年度）」の補助と、国立国語研究所の支援を受けて作成しました。

本書の無断転載ならびに無断複製物の譲渡および配信は、著作権法上の例外を除き禁じられています。また、本書を代行業者などの第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内の利用であっても一切認められておりません。

本誌の感想を
お寄せください



手紙の宛先

〒891-9112 鹿児島県大島郡和泊町和泊10
和泊町文化協会事務局
島ムニむんちやの島ムニ保存会 担当者 宛



メールの宛先

mihoko@po4.synapse.ne.jp